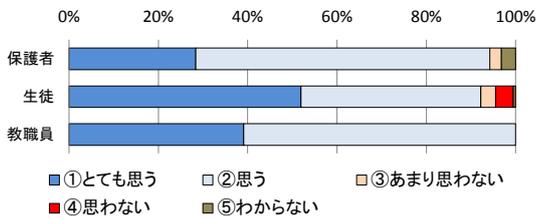


平成27年度 保護者・生徒・教職員の学校アンケート集計

前年度比

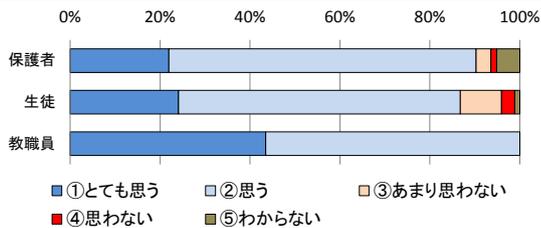
問1 生徒は、楽しい学校生活を送っている。



今年度も本校の目標は、保護者や地域の信託に応える『質の高い教育の提供』及び『安全・安心で信頼される学校』である。昨年同様、保護者・生徒・教職員とも肯定的評価である1と2を合わせ、91%以上の評価を得られたことは成果である。昨年度75%の肯定的評価だった現2年生は89%と上がったが、③・④の否定的評価10%の生徒にも目を向け、生徒全員が安心して楽しい学校生活が送れるよう、小規模校の特色を生かし、生徒一人一人を丁寧に見守り育てていきたい。

肯定

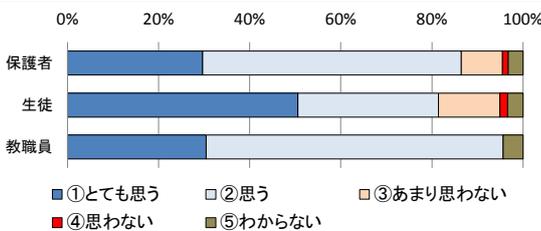
問2 落ち着いた学習環境の中で授業が行われている。



保護者の肯定的評価は昨年度の78%から93.5%と上がり、生徒は81%から84%と上がっている。学年別では、昨年度の2年生が60%を示している、1月8日に新校舎へと引っ越し、新しい学校生活へとなって、現3年生となり、肯定的評価は82%と高い数値を打ち出している。教育環境の劇的な変化は、生徒の学習への意欲や授業規律の向上へとつながっているかといったところは、数値で示すことが表しにくいですが、授業中の落ち着いた様子やから生徒自身の成長を伺える。

肯定

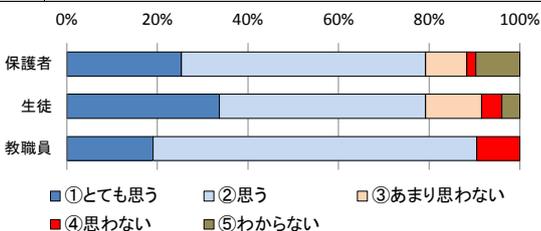
問3 朝の読書活動は、生徒が読書に親しみ読解力を高めていくために役立っている。



保護者の評価は、昨年度の72%から86%へと上がっている。生徒は昨年度の82%から81%へ1ポイント下がってはいるものの相変わらずの高評価である。毎年、生徒からは読書の時間を増やしてほしいという肯定的な意見が多く寄せられている。小竹図書館より図書支援員が派遣されていて、生徒の希望する図書がすぐ揃い、明るい光の入る図書室の環境もよいため、今後は授業で図書室を活用していくことにも力を入れ、継続的な読書習慣の定着を図っていきたい。

肯定

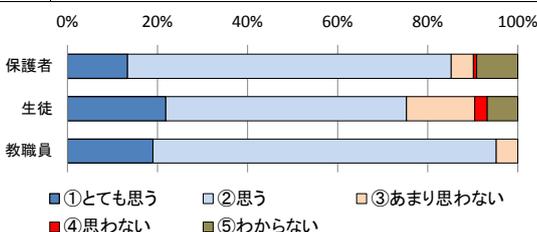
問4 スクールライフ（連絡・日記帳）の活用は、明日の学習への意識付けをさせるとともに、担任の生徒理解に役立っている。



一人一人の生徒に対して、担任教諭が授業のない時間に、一言の返事をそれぞれのスクールライフに書き込んでいる姿を職員室でみることできる。保護者・生徒・教職員ともに高い評価を得ていることが、左グラフより捉えられる。



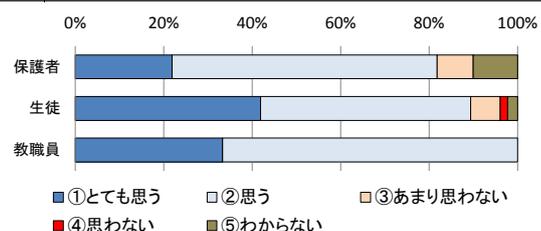
問5 学校は、生徒の学力の定着・向上を図るために、少人数の習熟度別学習を取り入れた授業や、授業の改善に取り組んでいる。



『質の高い教育の提供』を本校の教育活動の重点目標の1つに位置付け、生徒に授業アンケートも実施し授業改善に努めてきた。保護者の評価は昨年より1ポイント上がり79%で、生徒は昨年より1ポイント下がりはしたもののほぼ変わらずの75%であった。これからも保護者・生徒の要望に応える学習指導にさらに力を入れていきたい。



問6 学習指導の評価・評定の方法（成績の出し方）については保護者会での説明やプリントを読んで理解している。

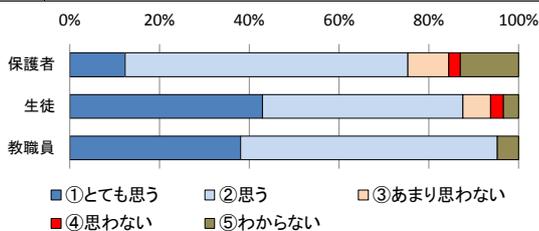


評価・評定に関わる質問6の保護者の肯定的評価は昨年度より3%上がり82%、生徒は89%の評価である。さらに授業内における説明や、三者面談、二者面談(教員と生徒)時や保護者会での説明を継続すると共に、学校として適正な評価・評定として、さらに精度を高める努力をしていきたい。



肯定

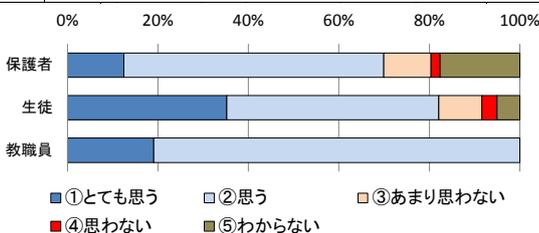
問7 学習指導の評価・評定は適正で信頼できる。



保護者は学年が進むにつれて、肯定的評価は下がってくる傾向がみられる。
生徒は学年が進むにつれて、肯定的評価は上がってくる傾向がみられる。



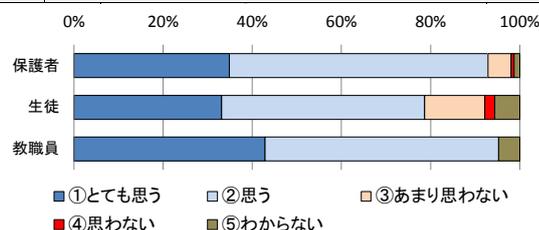
問8 道徳教育は道徳の時間を要として日々の生活の中で行われ、心の教育が推進されている。



保護者の評価は昨年度の70%から69%へ下がった。また、生徒の評価も86%から82%下がっている。肯定的評価が80%を超えているというは、生徒にとって、生徒にとって道徳の授業は受け入れやすいものである、と捉え、ますます教材開発、指導の工夫を重ねていく必要がある。また、道徳教育は自分の生き方、人や集団・社会とのかかわりについて考えを深める時間であり、平成31年度からの『道徳の教科化』へ向けて、着々と準備をしていきたい。



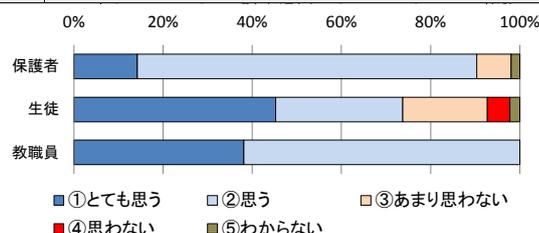
問9 三者面談は、学習や教育相談のために役立っている。



保護者の評価は昨年度同様89%から95%へと上がっている。面談前には各教科担任から授業での様子や課題などをまとめ、面談時に学習評価などと共に伝え、短時間でも保護者・生徒にとって充実した機会となるよう工夫していることの評価だとうけとめている。



問10 学校経営計画、学校だより、学年だよりや各お知らせの文書等により、教育目標、指導方針及び指導内容を理解することができる。

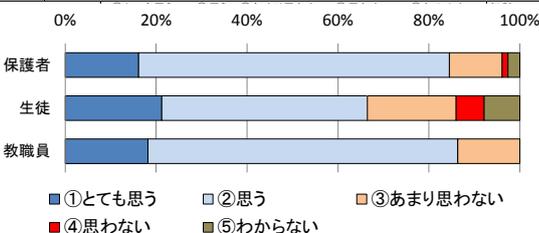


「学校経営計画、学校だより、学年だよりや各お知らせの文書等は、教育目標、指導方針及び指導内容についての保護者の理解を深めるために役立っている。」

保護者の評価は昨年度87%から5ポイント上がり92%になった。町内会は回覧板を通して本校の学校だよりが回覧され、地域にも本校生徒の様子を知っていただく機会をつくっている。学校だよりや学年だよりを通じて、今後も日頃の教育活動や生徒の学習・活動を伝えていく努力を継続していきたい。



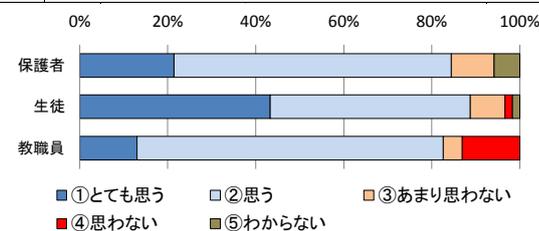
問11 学校公開・授業参観・道徳授業地区公開講座・保護者会は、学校と保護者・地域が理解を深める機会となっている。



保護者・生徒の評価は昨年度より上がった。特に保護者は8ポイント上がり83%であった。ただし、多くの保護者・地域の方々に来校・参加いただく努力と工夫は、継続していく課題となっている。保護者からは設定日の仕方に工夫を求める意見は、いただいている。今後も貴重な意見を生かし改善に努めると共に、新校舎での教育活動や生徒の様子などに関心を深めていただくための情報発信に努めていきたい。



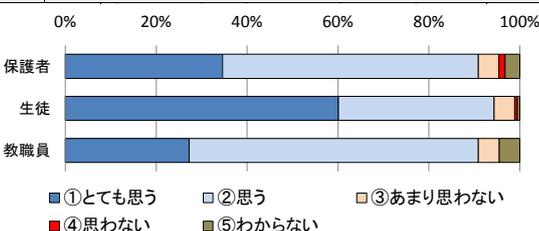
問12 生徒は、時間・服装・言葉遣い・挨拶などの基本的な生活習慣が身に付いている。



保護者の評価は昨年度から3ポイント下がり84%、生徒も3ポイント下がり89%であった。毎朝、昇降口前で生徒会が自主的に挨拶運動をし、規律ある学校生活を目指し取り組んでいるが、生徒会のアンケート調査の結果からも、1・2年生の挨拶に元気がないあった。豊二中の伝統である元気な挨拶を望む意見が多数あった。学校生活の基本となる生活習慣の指導を学校全体で取り組んでいきたい。



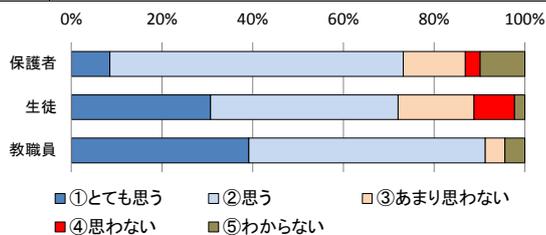
問13 部活動は生徒の主体性、協調性、継続性、忍耐力などを育成し、健全な心身の発達につながっている。



保護者・生徒ともに昨年度より3ポイント上がって90%であった。新校舎改築工事のため、2年間校庭が使えなかったことは運動部の活動に大きく影響していた。しかし、9月に校庭改修工事も終わり、1学年生徒からは肯定的評価が100%も出ている。昼休みに校庭で遊ぶ生徒には健全な姿を見て取れる。また、学校生活の重要な部分を占める部活動について、今後の成果が期待される。



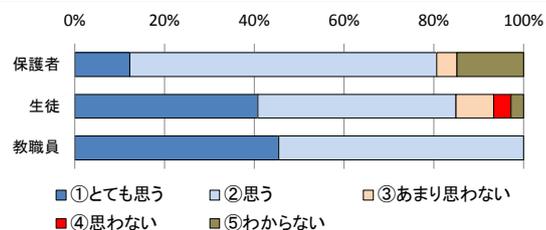
問14 給食の内容・量とも適切である。



保護者・生徒ともに昨年度より評価が上がった。保護者は8ポイント上がって73%であった。生徒においては6ポイント上がって72%であった。今年度も本校職員の栄養教諭が毎日全教室を回り、給食指導にあたって食育を推進してきた。直接生徒の意見を聞き取り、献立の工夫・改善に努めて、さらに生徒の要望に応えられる給食と食育の推進を図っていききたい。



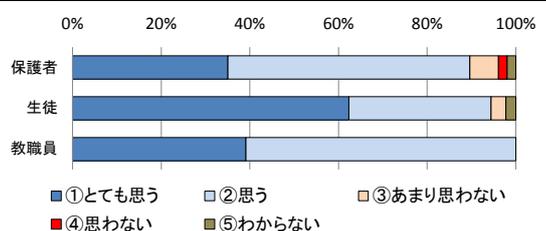
問15 保健、食育などの健康に関する指導や避難訓練、交通安全等の指導は適切に行われている。



保護者評価は昨年度から7ポイント上がり81%であった。生徒は2ポイント下がり85%であった。一昨年度初めて引き取り訓練を行い、今までの課題点や反省を生かし改善に努め実施した。生徒からは、毎月の避難訓練に対する建設的な意見が多く寄せられた。健康に関しては適切な時期に、養護教諭から全校生徒にむけて、保健講話として熱中症や感染症などの予防法や対処法の指導を行った。



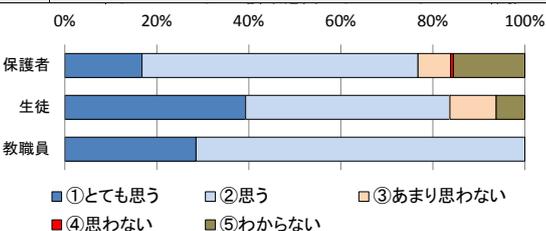
問16 運動会などの行事は生徒の主体性を生かし、実りある行事となっている。



保護者・生徒・教職員は、89%・94%・100%の評価であった。特に、第54回運動会は校舎改修工事が終わり、自校での開催を待ち望んでいたことから、高い評価が得られたのは当然の成果である。保護者・生徒の理解と生徒主体の行事となっていることが裏付けられる。また、初の小中連携競技に取り組みである「綱引き」は、3年生有志の運営により多くの小学生が参加し、活気づいた。



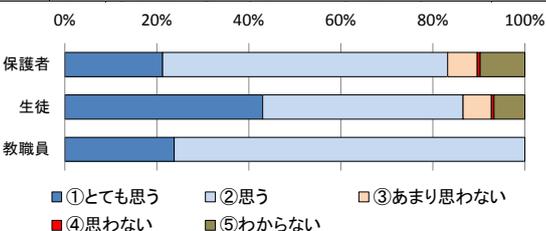
問17 進路についての説明会（年2回）および進路指導は有効に行われている。



保護者は昨年度より3ポイント上がり76%、生徒は昨年度より3ポイント下がり83%であった。進路への関心は保護者・生徒ともに高い。進路説明会や進路指導を通して、毎年様々な変更点がある上級学校への進学や進路に関する情報提供を丁寧に行っていきたい。



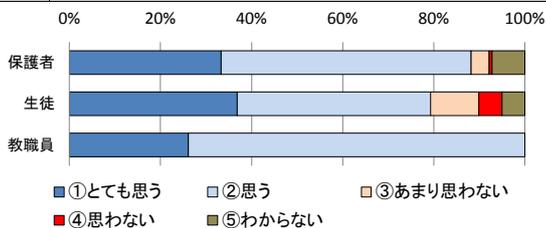
問18 職場訪問・職場体験等のキャリア教育や留学生交流会・ソーシャルスキルトレーニングなどの体験学習を通して、自己と他者への理解を深める学習が適切に行われている。



保護者は17ポイント上がり83%、生徒も6ポイント上がり91%であった。生徒にとって自己理解と他者理解、様々な文化理解につながる貴重な体験学習として今後も充実させていきたい。また、このような体験学習を保護者・地域の方に理解していただけるよう、情報発信にも努めていきたい。



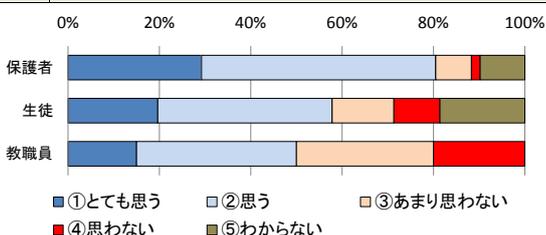
問19 校舎や校庭、体育館（更衣棟を含む）が整備され、それらを活用した教育活動が行われている。



体育館・更衣棟・プールまでは、校舎から離れており、回廊を通過していくため、生徒からは15パーセントの否定的評価が生じた。これは、主に2・3年生が旧校舎のつくりと比べた結果の評価である。旧校舎は体育館・プールの隣接していたためである。しかし、関心するのは、生徒は始業のチャイムに間に合うように離れている体育館・更衣棟・プールまで移動していることである。良い習慣が身につけている。



問20 小・中学校間の円滑な接続を図るため、小5・6年生が登校し、中学校教員による授業を体験することは適切な取り組みである。



教職員の評価が昨年度の肯定的評価である71%から67%に評価が下がっている。また、生徒の評価は昨年度と同様の57%である。しかし、3年生の肯定的評価は低く39%である。この数値の示すところから、「小中一貫プログラム」は今年度実質始まったばかりであり、机上の計画を本年度は検証し、今後も改善をしていくなかで推移を比べていく必要があるということである。乗り入れ授業を実施する際の特別時間割の作成は、中学校の授業にとって支障のない作成するための工夫が望まれる。

